



ボールを投げて獲得票を数える各チームの高校生

東日本大震災で被災した岩手、宮城、福島県の高校生らが集まり、東北について考える「ビヨンドトッモロー東北未来リーダーズサミット2012」が、10月12日から3日間、東京都内で開かれました。被災地の若者を対象に教育事業を行っている「教育支援グローバル基金」の主催で、昨年引き続き、2回目です。参加者は、公募で選ばれた高校生60人と、大学生15人の計75人。10チームに分かれ、経営者や起業家ら各界で活躍する社会人の助言のもと、「安全なまちづくり」「観光・地域活性化」などのテーマで、東北の未来への提言をまとめました。最終日に行われた提言発表会で、各チームのメンバーは政党の幹部という想定で、政党名とマニフェスト(公約)を掲げて4分間の

東北の学生ら 未来を提言

発表をしました。復興の進み具合が分かるようにインターネットで発信していくことや、防災ツアの実施、東北復活祭の開催などのアイデアがありました。

その後、オリシナリテイや実現可能性などを基準に、参加者を含む会場にいる人たち約130人が、支持政党に投票しました。

最も多い37票を獲得して優勝したのは、チーム「大きな希望 東北党」。小中高校生の修学旅行の一環として、全国から被災地に来てもらい、高齢者との交流や農業体験などをしてもらうと提言しました。被災者と支援者の考え方の溝を埋めたいという思いから出てきた案でした。

チームメンバーの菅原彩加さん(宮城・仙台育英学園高からスイス留学中)は「被災地に来てもらうきっかけが必要。教育に焦点をあてたのがよかった」、山根りんさん(岩手県立宮古商業高)は「いろいろな意見を聞いて視野が広がった」と話していました。

家族を震災で失いながらも、逆境を乗り越え、未来を切り開いていこうとする同世代の力強いメッセージが、未来に生かされれば、と思われました。

△ヨミウリ・ジュニア・ナレス取材班 高2・江端三志郎、高3・高橋美桜記者